
ヴァンパイアハンター

トム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヴァンパイアハンター

【Nコード】

N7899P

【作者名】

トム

【あらすじ】

時はいまから約20年までさかのぼる。

世界の大企業、ローリングスは核開発から人体開発まで広い分野の開発を極秘で進めていた。

その1番の成果といえるのがヴァンパイアであろう。

人を食い荒らす悪魔。

その人体実験に成功したローリングスは次第に

世界から孤立、敵対していった。

それから、20年がたった今日、もはやローリングスは

世界の敵とみなされていたことが常識であつた。

遂にローリングスは開発の完成に一気に乗り出すこととなる。
人体実験だ。

そして、その陰謀に世界は巻き込まれていく。

ミッション1 危険の始まり

なにもない、ただの山道。

枯れ葉が落ちたその道は歩くだけでクシュと独特の音を立てる。

今回はただの調査任務だがこの町はいつらか違う感じがした。

「やっぱり、なんか変じゃない？この村。」

と言ったのはシータという女性。そのあとに、

「ああ、何かありそうだな、シータ。」

と続いたのはジョン。これにシータが文句を言う。

「だから、名前で呼ばないで。コードネームで任務中はコードネームで呼んでよ。」

「ああ、悪かったな、スリー。」

任務中は教団が定めるハンドネームで呼び合う。その方が早く指示が出せるし、ハンドサインでも、

指示が通る。つまり、スリーなら指3本を立てる。

そこで、まったく話さなかった、イール、コードネーム、ワンが口を開いた。

「おい、静かにしろ。嚴重警戒中だ。それに名前で呼び合ってもいい。」

実は今回各自で動いてもらいたいんだ。」

今回はリーダーに抜擢され気合いをいれてのぞんでいた。

「だってよ、シータ。」

「分かったわ。」

そう言っつて銃を腰から抜き出す。と、ここでイールがストップをかけた。

まったく集中していなかったジョンが聞き返す。

「どうした？」

「トラップだ。」

そう言っつて下に落ちていた、石を木と木の間に投げた。見事に木の

間を通過した石は

赤いレーザーに当たる。刹那、大きな爆音とともに火が飛び出し、目がくらむ。

それを3人は反射的に腕で覆いかぶせてしまった。

「くっ」

と、声を漏らしたのはシートだ。

爆音が止まると、そのあたりは焦げて真っ黒になっていた。

「これだけ、高価なトラップはいたずらではないな」

「ええ。この村は何かの組織が関わっているとみて間違いないでしょうね。」

そのまま少し歩くと小さな小屋が見える。

「じゃ、ここで別行動だ。」

そう言つて、1人1人に無線を配る。

「範囲は？」

と聞いたのは、ジョン。これに、イールは

「半径10kmだ。」

「了解」

「じゃ、ジョンはこの小屋を調べてくれ。オレと、シートは先を目指す。」

何か、あつたら連絡しろ。それと、おおざっぱでいい。

適当に棚などを探して安全でなければ、すぐに戻ってこい。」

「オッケーです。」

先ほどとは違い3人は真剣な顔つきに戻っていた。

「じゃ、散だ。」

そう言つと、ジョンは小屋を目指し、イールとシートは村を目指すのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7899p/>

ヴァンパイアハンター

2011年1月3日22時34分発行